

## 平塚から消えたアカウミガメ

### 【はじめに】

2019年の夏に神奈川県湯河原町へ海水浴に行ったときに、ウミガメの子供を波打ち際で発見したが、すぐに沖の方に行ってしまった。

まさか湯河原町でウミガメを見ることができると思わなかったので、生態が気になったので調べてみると湯河原町で夏にアカウミガメの産卵記録が無いことがわかった。

近隣のウミガメの生態を調べた結果、神奈川県平塚市には産卵記録がある事がわかったので平塚市の記録を調べてみた。

### 【研究方法】

- ・アカウミガメの生態を調べる。  
図書館で本や図鑑を借りる。
- ・平塚海岸の産卵例を調べる。  
平塚市博物館に問い合わせる。
- ・海水の温度を調べる。  
JAXAのAMSR地球観測ビューアを使用。

### 【結果】

- ・海水の温度が年々温かくなっている事がわかった。
- ・平塚海岸では2015年以降ウミガメの産卵がない事がわかった。

### 【アカウミガメの生態】

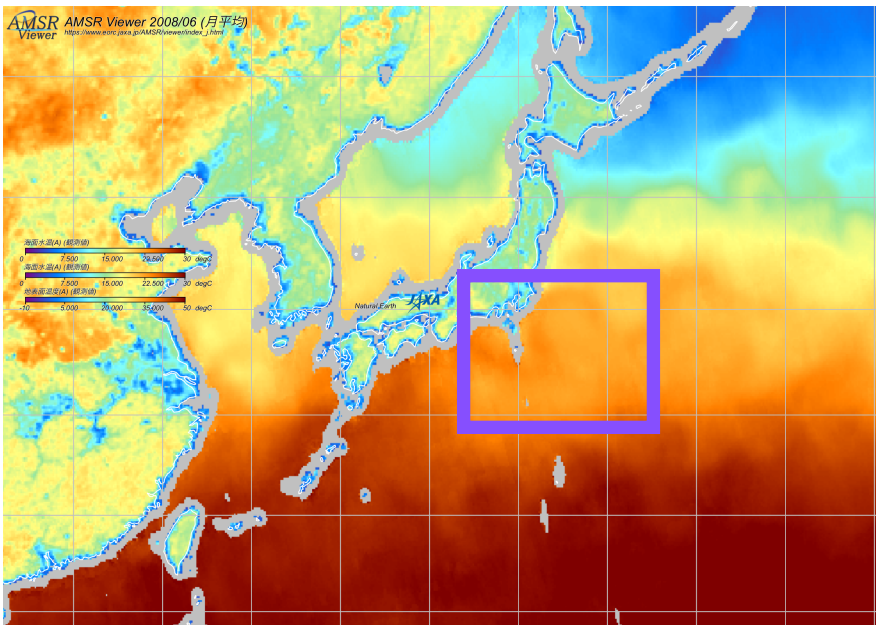
- ・日本では、青森県より南の地域に広く分布する。
- ・産卵場所は、福島県より南の太平洋岸、石川県能登半島より西の日本海岸。
- ・産卵は5～8月。
- ・国際希少野生動植物種でもあり、捕獲や飼育は禁止されている。
- ・IUCNレッドリスト絶滅危惧種II類、環境省版では絶滅危惧IB類として記載されている。
- ・甲羅の大きさは、69～103cm。体重は70～180kg。
- ・産卵は、5～8月の夜間に上陸して平均120個ほどの卵を産む。
- ・ワンシーズンに同じ個体が最大5回に渡り産卵を繰り返す。
- ・産卵は毎年ではない。
- ・50～75日で孵化する。
- ・砂中温度が29.7°Cを境にそれ以上だとメスになりそれ以下だとオスになる確率が高くなる。
- ・日本で生まれた子ガメたちは、黒潮に乗って数年かけてアメリカ西海岸やメキシコ付近へ行き、成長したら日本へ産卵のため日本へ帰ってくる。

### 【平塚市での産卵記録】

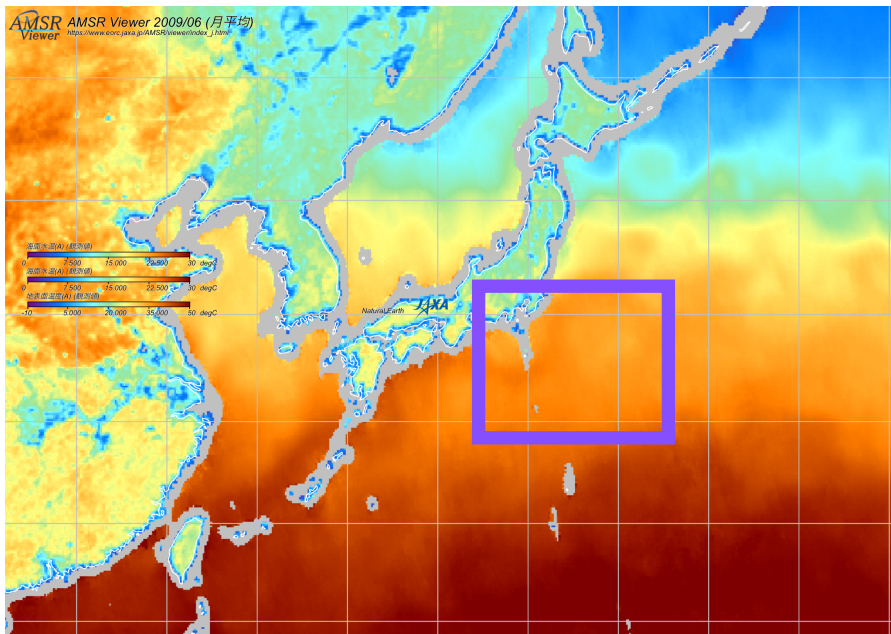
2008年～2011年までは毎年。2013年、2015年。

平塚市博物館の学芸員の松本さんによると、2015年以降は、産卵記録は無いが生息はしているとのこと。

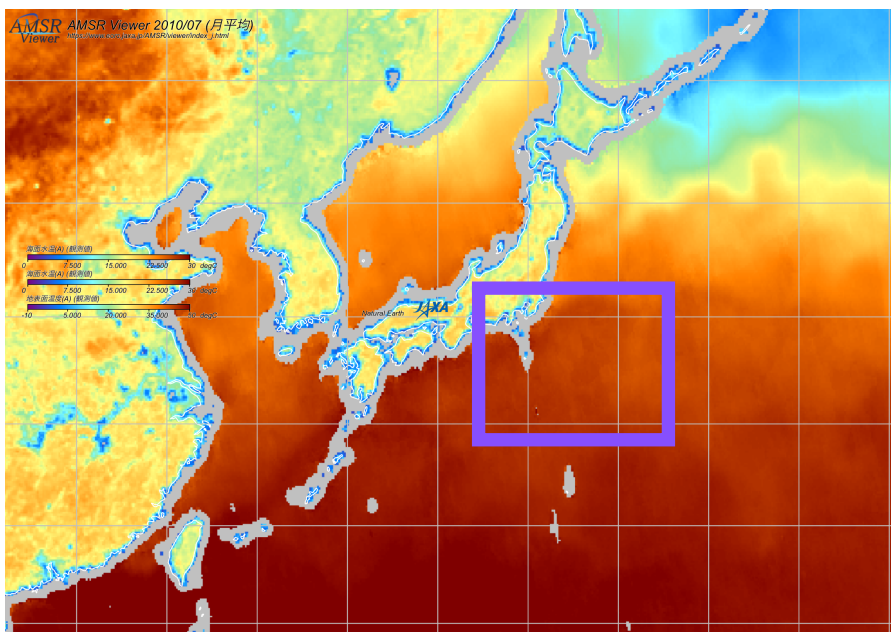
年・月	2008・6	2009・6	2010・7	2011・7	2013・6	2015・6
産卵件数	1	3	2	1	1	1



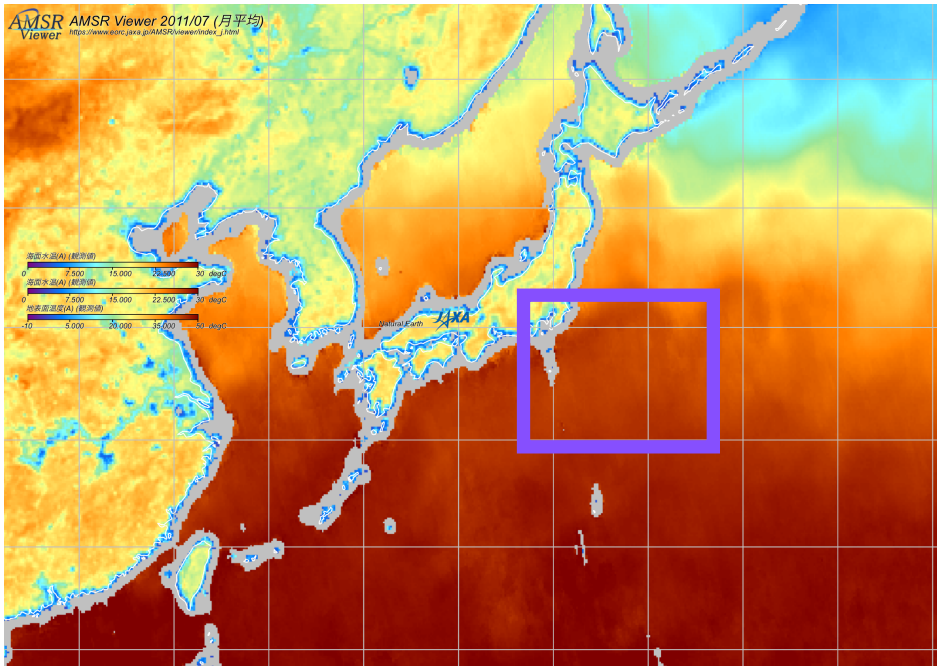
2008年6月  
 関東海域北部月平均海水温  
 20.040°C  
 22°C～25°Cが多い。



2009年6月  
 関東海域北部月平均海水温  
 22.115°C  
 22°C～25°Cが多い。



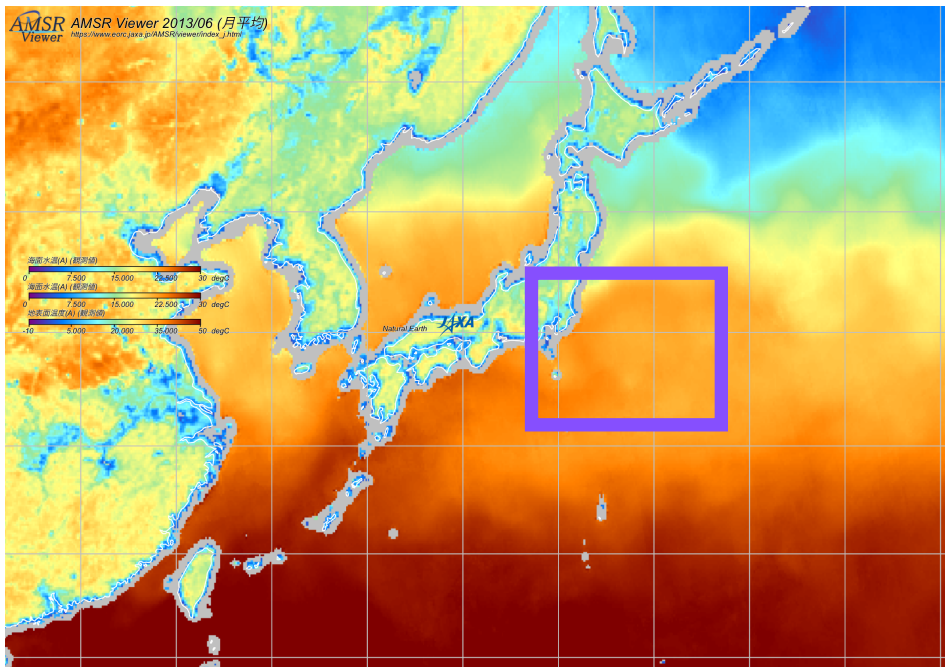
2010年7月  
 関東海域北部月平均海水温  
 26.703°C  
 赤オレンジ色が増えているので、  
 25°C前後が多い。



2011年7月

関東海域北部月平均海水温  
26.703°C

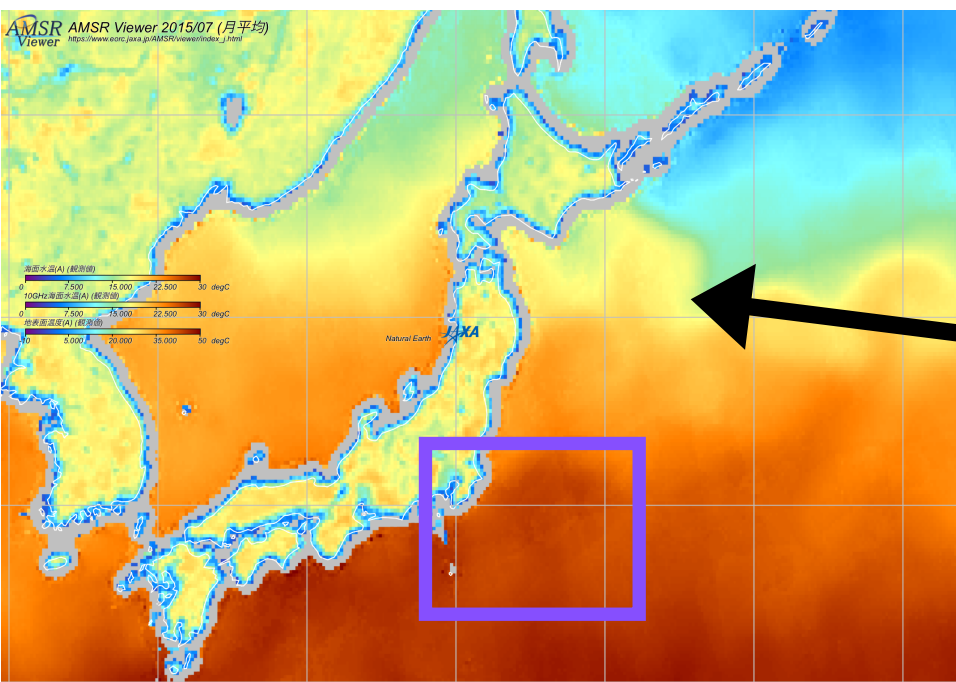
赤オレンジ色が増えているので、  
25°C前後が多い。



2013年6月

関東海域北部月平均海水温  
22.170°C

赤オレンジ色が増えているので、  
25°C前後が多い。

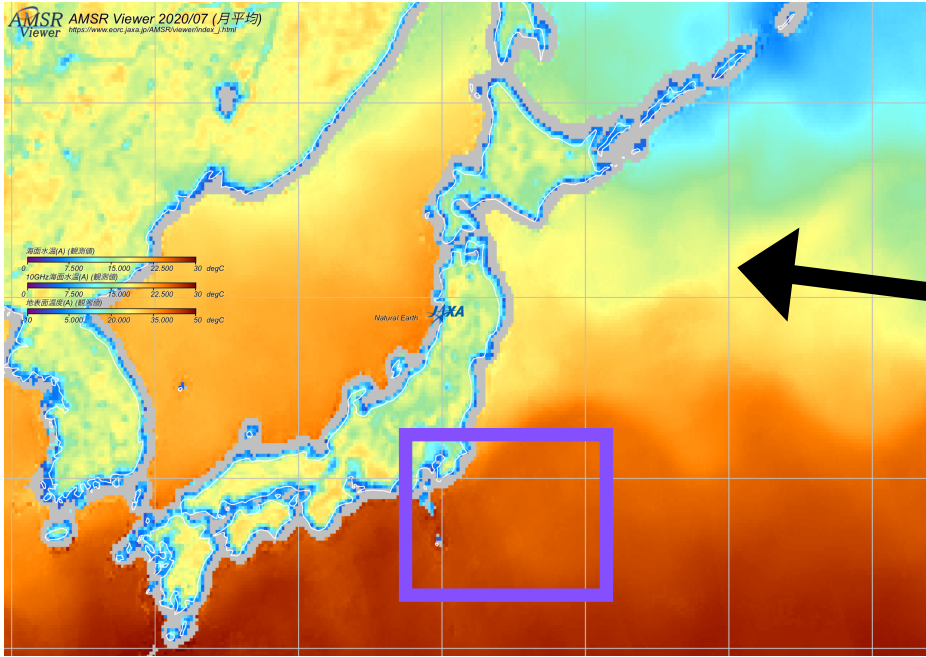


2015年6月

関東海域北部月平均海水温  
22.268°C

2010年と同じような感じで、  
25°C前後が多い。

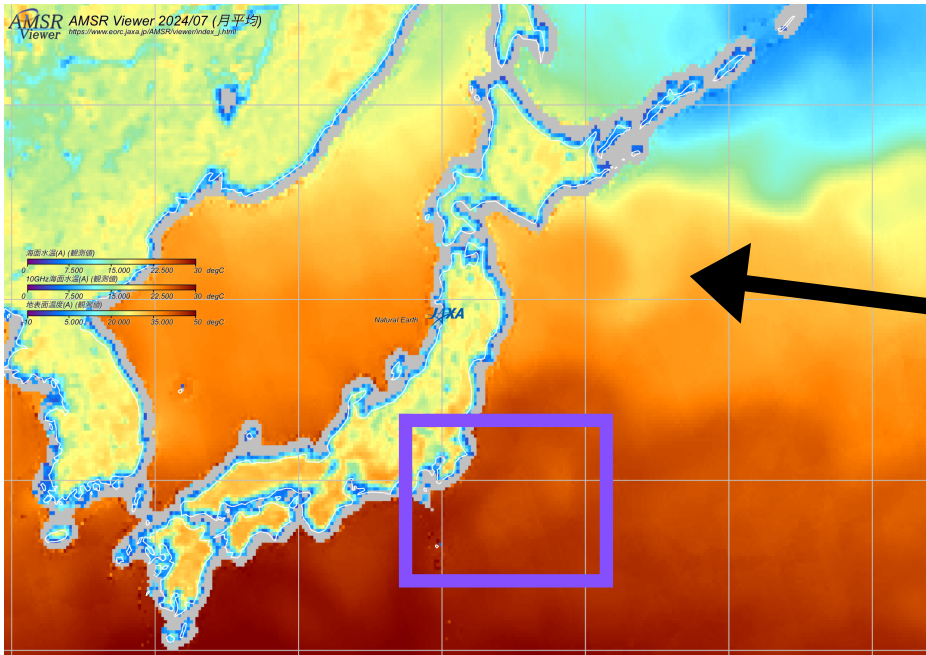
北海道の太平洋側の水温が  
2010年と比べて黄色い色(20°C  
前後) が増えている。



2020年7月  
 関東海域北部月平均海水温  
 25.777°C

2010年と比べると、あまり変化は無い。

北海道の太平洋側の水温が2015年と比べると、さらに黄色い色 (20°C前後) が増えている。

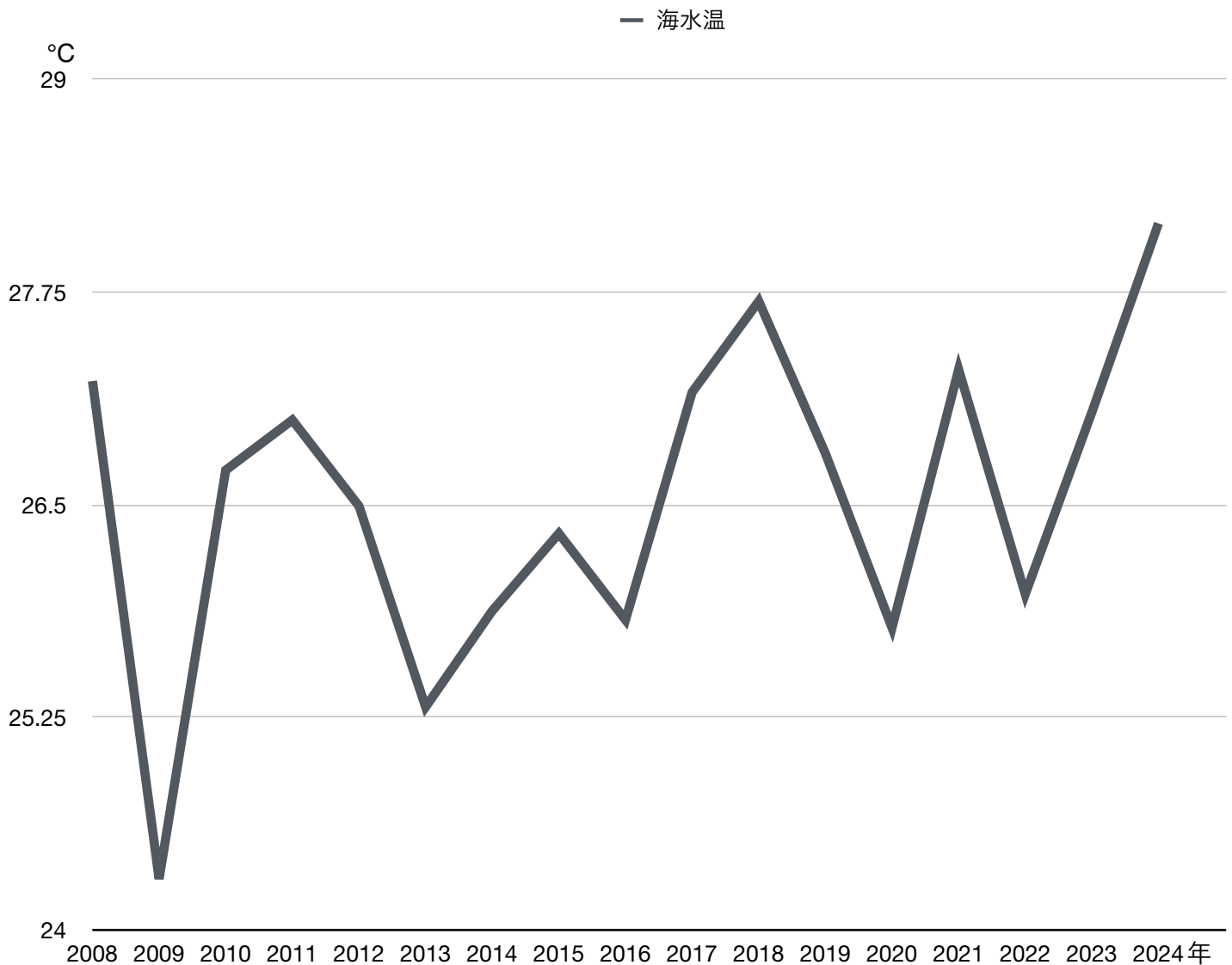


2024年7月  
 関東海域北部月平均海水温  
 28.154°C

赤い。  
 30°C近くになっている。

北海道の太平洋側の水温が2020年と比べると、オレンジ色 (22°C前後) になっている。

【2008年～2024年の7月の関東海域北部月平均海水温のグラフ】



【気づいた事】

- ・ 2008年～2009年までの期間で、急激に下がっている事がわかった。  
その後は、海水温のバラつきが激しく上下しながら上がっている事がわかった。
- ・ 産卵情報が絶えた2015年は前回産卵した2013年より温度が高くなっている。  
2016年からは、徐々に温度が上がってきている。
- ・ このまま海水温が上がっていったら、平塚市にアカウミガメは戻ってこないと思う。

### 【まとめ】

以上の観察から2015年以降、海水温が上がっていることがわかる。

このことから、2015年以降産卵がないのは海水温が高すぎるのでアカウミガメの産卵が無くなっているのでは無いかと考えられる。

また、ウミガメの産卵に適した砂浜の環境が失われているのかもしれない。

なぜかという、海水浴に行った時の砂浜の温度がかなり暑かった。他にも、近くに国道134号が通っているので音や光もウミガメの産卵を妨げているのかもしれない。

今回の観察では、海水温を調べたので今度は砂浜の温度を調べたい。

### 【謝辞】

・平塚市博物館学芸員 松本さん

夏休みの忙しい中休憩時間を使ってまで、電話で教えてくださりありがとうございます。

### 【参考文献】

- ・屋久島発うみがめの涙その生態と環境
- ・山溪ハンディ図鑑10日本のカメ・トカゲ・ヘビ
- ・ウミガメの旅太平洋2万キロ

### 【参考資料】

- ・JAXA AMSR地球観測ビューア
- ・大地ギャラリー



宇宙からみた 相模原・相模湾周辺

■陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS) ■センサ: AVNIR-2 ■観測日: 2011年1月10日

空へ飛び、宇宙を拓く

